

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」急性期活動実習（BHELP）を実施しました（2024/1/20）

テーマ：日本災害医学会 地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース（BHELP）

場 所：Web 研修

2024年1月20日（土）、東北大学病院「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」第38回BHELP標準コースwebコースを開催しました。保健医療従事者（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、事務職員）、行政職員ら15名が受講し、日本全国から14名のインストラクターが講師として参加しました。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）がコースコーディネーターとして運営に携わりました。

日本災害医学会 BHELP（Basic Health Emergency Life Support for Public）標準コースは、災害発生直後の緊急避難場所・指定避難所の設営・運営を、被災者の生命、健康維持の観点からサポートできる人材を育成するためのコースです。災害時の避難者のなかには、多くの傷病者、要配慮者が存在します。保健医療福祉の観点からどのようにトリアージし、サポートし、外部機関につなげればよいか、座学やグループワークを通して概念、スキルを学習できます。

今回、能登半島地震が発生した直後とあって避難所生活・運営が大きくクローズアップされており、またインストラクターや受講者のなかには現地被災地にすでに派遣され保健医療支援者として活動してきた方々もいて、グループワークでは真に迫った熱心な議論がくり返されました。被災地では、集落によって避難所の運営レベルが大きく異なること、被災地域住民の検討によって感染対策や授乳室設置など要配慮者への配慮が十全になされた避難所が設置された地域もあったことなどが報告されていました。

社会の災害対応力向上には、それを実践できる人材育成が不可欠です。当研究所ではこのような実践的研修会を継続して開催して参ります。

BHELP標準コースの目標

1. 災害対応に関する共通言語と共通原則がわかる
2. 自らの生命を守るための行動が想定できる
3. 被災した住民の生命を守るための行動がわかる
 - 1 傷病者の救護：CSCATTT
 - 2 要配慮者の救護：CSCAHHH
 - Health care Triage ヘルスケアトリアージ
 - Helping Hand 手を差し伸べる
 - Handover つなぐ
4. 住民の健康維持に配慮した避難所の設営と運営の留意点がわかる。
5. 要配慮者への体制整備（福祉避難所）の必要性がわかる

BHELP 標準コース到達目標

演習5 設問④

どのように避難所をレイアウトしたらよいでしょうか

【配慮する点】

- ・健康問題の予防をすること
- ・生活環境を改善すること

避難所のレイアウトを健康問題から考える



福祉避難所について学習



コース受講者と全国から参加したインストラクター（Zoom スクリーンショット）